2026 年
9 月 25 日
NO.68

全国 OB 会ニュース

日本貨物鉄道労働組合
全国 OB 会
発行人　松村慎一

9.23 さようなら原発全国集会開催！

シルバーウィーク最終日の秋分の日である 9 月 23 日(水)、新宿:代々木公園で「さようなら原発全国集会」が開催されました。

当日は朝から雨模様の中 4,000 名(主催者発表)が集まり、JR 貨物労組は貨物労連の仲間も含めて、57 名の組合員が参加しました。

集会は主催者である「さようなら原発 1000 万人署名市民の会」を代表して、作家の鎌田慧さんが挨拶され、その後メインスピーチに登壇した国際交流 NGO ピースボート共同代表の畠山澄子さんから「戦争、原発、気候危機には共通点がある。危険や犠牲を誰かに押しつけるのではなく、次の世代が安心して暮らせる未来を作りたい」と訴えました。

またリレートークでは、脱炭素社会を目指す若者らの団体「ワタシのミライ」や福島第 1 原発事故の放射線被ばくで甲状腺がんになった原告らを支援する「311 甲状腺がん子ども支援ネットワーク」などから現状と原発廃炉に向けた訴えが行われ、集会の最後には二つのコースに分かれて街頭アピールを行いました。

現在日本では『猛暑日』よりもさらに高い気温となる『酷暑日』が設定され、今年は過去最高となる 10 日間となりました。さらに各地で豪雨災害が発生するなど、誰の目にも明らかな気候の危機に瀕しています。このことは世界各地でも干ばつや猛暑が相次いでいることや、ネパールで発生した土石流についても、温暖化による「永久凍土の融解」が原因とも言われています。

地球の温暖化対策が求められて久しいですが、残念ながらアメリカが、地球温暖化対策として採択された国際的な取り決めであるパリ協定から離脱するなど、地球温暖化の危機を認識しない大国のエゴをむき出しにしているのが現実となっています。

一方高市政権は、化石燃料の調達の多角化や原発の最大活用などを盛り込んだ、新たなエネルギー政策「パワーGX」を 2026 年末までにとりまとめようとしています。しかし原発そのものが環境破壊をもたらすものであることは、東日本大震災による福島第一原発事故でも明らかとなっています。すでに東日本大震災から 15 年が経過していますが、いまだに南相馬市をはじめとして７市町村の一部に帰還困難区域が設定され、2 万人を超える住民が避難を継続していることを忘れてはなりません。

原発と人類が共存できないことは明らかです。原発に依存しない社会の実現を目指しましょう。